

---

# 星降る夜に、祝福を

ペケ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

星降る夜に、祝福を

### 【Nコード】

N8510I

### 【作者名】

ペケ

### 【あらすじ】

暗黒の世界で、愛を歌ったパイロットの話

サラはキッチンで朝食のフレンチトーストを焼きながら、テーブルの上で新聞を読む夫のジャックにラジオをつけてくれと頼んだ。

ラジオから朝の音楽が流れる。流行りの歌で、サラが好きなドラマの主題歌だった。二階から娘のエリーが寝ぼけ眼で降りてくる。

「おはよう、ねぼすけさん。早く食べないと学校に遅れるわよ」

三人揃って朝食を食べる。サラは豆から挽いたこだわりのコーヒーをカップに注ぎ、ラジオに耳を傾ける。

「エリー、今日はお母さん遅くなるから、パパの言うことをちゃんと聞くのよ」

「分かってるよママ。大丈夫、あたしそんなに子どもじゃないわ」

エリーはふくれっ面になり、ミルクの入ったコップをあおる。

「そうそう、エリーはもう小学生なんだ。もうお姉さんだもんね」

ジャックが笑いながら言う。サラは娘のブロンドの髪を撫でながら、

「そうね、心配なのは、パパの方かもね」

サラが言うと、みんなが笑った。ラジオからはゆったりとしたクラシックが流れ、その後朝のニュースが流れた。

世界情勢はあまり芳しくないようだった。中東では戦争が、アジアではクーデターが、アフリカではテロリズムが横行していた。ラジオは次のニュースを伝える。人類初の火星への有人飛行が1か月後に迫っていた。サラは、目を細め、空を見上げた。空はどこまでも青い。サラは、再び宇宙に上げられる日を楽しみにしていた。

1か月後、サラは有人火星探査船『スワロウバード』とともに宇宙にいた。母なる地球がもうあんなに遠い。月軌道を通り過ぎ、サラは順調に火星へと向かっていた。

20代するとき、サラは一度スペースシャトルに乗ったことがある。

あのときの感動は今でも覚えている。青い地球がどこまでも広がる暗黒の中で、ひと際輝いていた。ジャックと結婚しエリーを出産してからは妻として母として毎日を生きていたが、宇宙への思いは彼女の中から消えなかった。もう一度宇宙へ行きたい。エリーに自分が頑張っている姿を見てほしい。その思いから、再びサラは宇宙を目指し、そして今、彼女は宇宙にいる。

「こちらスワロウバード。火星への航海は順調です。地球のみならず、聞こえていますか？」

彼女の声は世界中に配信され、多くの人間がそれを聞いていた。誰も彼もがテレビやラジオ、インターネットに食いつき、宇宙から聞こえてくる声と映像に目を輝かせていた。

だが全人類が見守る中、スワロウバードを悲劇が襲った。

管制室に警報が鳴り響く。スワロウバードに異常発生。原因は不明。航行不能。サラは宇宙の果てで、1人になった。

「管制室、管制室、聞こえますか。こちらスワロウバード。管制室、聞こえますか」

管制室は答えた。

「こちら管制室、聞こえている。スワロウバード応答しろ。こちら管制室」

「こちらスワロウバード、管制室聞こえますか。こちらスワロウバード」

管制室に沈黙が流れる。サラの声がスピーカーから流れ続ける。全世界への生中継はすでに停止していた。

2時間後、管制室にサラの家族が呼ばれた。夫のジャックは愛娘を抱き締め、静かに嗚咽した。

「あ、ママの声だ。ねえママ、あたしよ。エリーよ。ママ聞こえる？」

「管制室、聞こえますか？ こちらスワロウバード。航行不能、繰

り返す、航行不能。誰か答えて」

管制室の誰もが何か打つ手はないのか、あれこれ議論していたが、もはや手の施しようがなかった。誰も諦めていなかったが、何もできなかつた。

「パパ、どうしてママは何も答えてくれないの？ ママはどうしちやつたの？」

母の声が聞こえなくなって、幼い娘は泣きそうな顔になりながら、父に尋ねた。ジャックは、娘の頭を優しく撫でただけで、何も言うことができなかった。

そのとき、歌が聞こえた。

深遠なる宇宙の果てから届いた、それはラブソングだった。流行りのドラマの流行りの歌。彼女が好きな歌だった。

サラは、スワロウバードの中で歌った。小さな声で、そっと歌った。

宇宙船から空気が漏れている。もう30分も持たないだろう。しかしサラは、愛を歌った。家族へ向けて。すべての人類へ向けて。

彼女の歌は、世界中に配信された。夫の願いだった。世界中の人がそれを聞いた。戦場で、難民キャンプで、スラム街で、彼女の歌をみんなが聞いた。

サラは、一人じゃなかつた。

それから40年後、有人木星探査船『ハミングバード』は木星へ向け出発し、木星軌道上にてスワロウバードを発見。

その5年後、スワロウバードとそのパイロットは、地球へと帰還した。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8510i/>

---

星降る夜に、祝福を

2010年10月21日22時23分発行